

不整脈治療③ ～先進治療を取り入れたアブレーション治療～

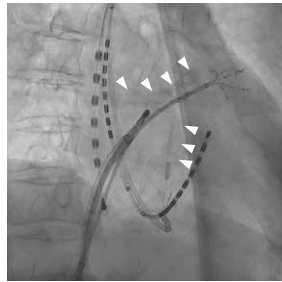


循環器内科副部長 鈴木 篤

3回目になる不整脈治療のお話今回で最後です。今回は当院で導入している先進治療についてお話しします。先進治療の中には通常の保険診療内の治療ではなく、倫理委員会の承認が必要なものもあり、ごく限られた病院でしか導入されていません。

アルコールで治療！ケミカルアブレーション

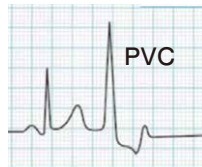
倫理委員会の承認が必要な先進治療の一つです。治療を行いたい場所が細い血管の場合に、血管に対して**エタノールを注入**して細胞壊死を起こし、**アブレーション効果を得る治療法**です。当院では、**マーシャル静脈**という細い血管にケミカルアブレーションを行い、難治性心房細動の治療成績向上に繋がっています。



ケミカルアブレーションにより、矢印の細い血管に沿って広く焼灼できている。

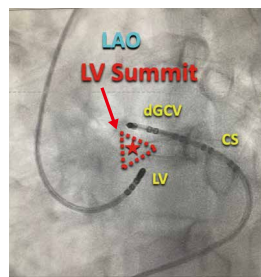
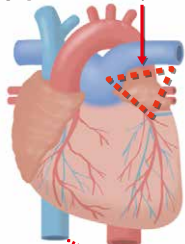
病巣を挟み撃ち！バイポーラーアブレーション

多くの不整脈がアブレーションで治療可能となっている現在でも根治の難しい不整脈の代表が**左室サミット(LV Summit)**と呼ばれる部分から起こる**心室性期外収縮(PVC)**です。LV Summitは図のように左心室の一番高いところに位置します。ここを起源とするPVCはどこからもカテーテルが届かないため治療困難



心室性期外収縮(PVC)

図:左室サミット



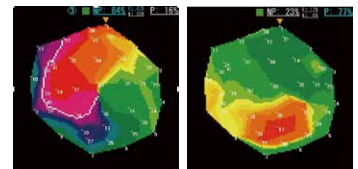
LV Summitの部分はどこからもアプローチできないが、本来届かない★の部分に対して、カテーテルで挟み込むことにより通電を行うことができる。

難なケースが多いです。このような症例に非常に効果が期待されているのが**バイポーラーアブレーション**で、通常1本のカテーテルで治療するところを、敢えて**2本のカテーテルを使ってPVC起源を挟み込み**、カテーテル同士で通電を行うことにより、**離れたところでも通電効果を及ぼすことができます**。当院では令和3年12月高難度新規医療技術導入申請が認可されました。国内で本治療が可能な施設はごく僅かですが、この治療により治療成績が飛躍的に改善すると考えられます。

不整脈探知機！エクストラマッピング



滋賀医科大学の**芦原貴司先生**が開発した日本発、**Made in Japan**の心房細動解析装置です。西日本では導入している病院がいくつかありますが、**東日本では殆どありません**。この**エクストラマッピング(ExTRa Mapping)**は、心臓のどの場所がより心房細動に関与しているかを解析し、数値化してくれるため、その数値の高いところを狙ってピンポイントで治療を行うことができます。これまでの治療の概念と異なりますが、当院は2019年にいち早くこれを導入し併用することで、今では難治性心房細動の治療成功率が日本最高水準の90%前後となっています。



不整脈あり

不整脈なし

以上、当院で導入している3つの先進治療について紹介させていただきました。最後までお読み頂きありがとうございました。不整脈で困っている方はいつでも当院循環器内科へご相談ください。